

SAPPORO 教区 NEWS

第24号

2015年8月9日

発行：カトリック札幌教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

『札幌教区百周年の年』の取り組み

教区宣司評（札幌教区宣教司牧評議会）と教区宣司評運営委員会は、昨年度から検討を重ね百周年の年を次のように取り組むことを期待し、7月2日付で各小教区と修道院へ取り組み方に関する文書を送付

教区宣司評では、『札幌教区百周年』を、盛りだくさんの記念行事を行うこと

で終わるのではなく、今までの自分たちの歩みを振り返り、私たちに与えられた使命を改めて認識し直し、新たな一歩を踏み出していくことを前提として内容を検討してきました。

教皇パウロ6世が語っているように、物事には車の両輪のように両方とも大切なことがあります。宣教に關して言えば、内的宣教（信者の福音化）も外的宣教（社会の福音化）も福音宣教の両輪として大切な事は言うまでもありません。

教区宣司評運営委員会が、今後の取り組みについて三段階にまとめてみましたので、小教区や各種集まり、修道院などで話し合っ、有意義な時間を送って頂くことを願っています。

「取り組みの第一ステップ」

「共同体」「宣教」「召命」に關して、司教メッセージに述べられている次の4項目について、今、実際に私たちが出来ること、あるいは取り組んでいることを小教区やグループなどで話し合ってください。

次の100年のために、直近の3年間に何が出来るか、何をすべきかを考えるのも一つの方法です。

◆信徒が宣教司牧の中心的役割を担うにはどうしたら良いかを考える。

◆建物にこだわらない教会共同体を作るにはどうしたら良いかを考える。

◆常に宣教している（現在進行形の）共同体とはどのようなものかについて考える。

◆外国籍信徒と一緒の多国籍教会としての共同体の在り方を考える。

「取り組みの第二ステップ」

各小教区やグループで話し合った後に、適時、話し合った内容を持ちより、地区全体でさらに話し合ってください。地区での話し合いが数回出来ると良いかもしれません。

さらに内容を深めるために、講演会や勉強会などを開催するのも一つの方法です。

「取り組みの第三ステップ」

2016年9月4日の記念大会（於…札幌の藤学園講堂）において、地区ごとにまとめた一年間の取り組みの総括と、札幌教区の新たな世紀（第二世紀）に向けての提言や祈り、共同祈願を発表し奉納して頂きます。

そして、司教の訓話もしくはシンポジウムなどで教区百周年の年の活動を総括します。

【教区百周年の年の動き】

（2015年7月24日現在）

- ◆2014年6月7日 教区宣司評で百周年の骨子を検討
- ◆2014年10月15日 教区宣司評運営委員会を開催し、教区百周年の取り組みについて検討を開始
- ◆2014年11月24日 教区宣司評にて教区百周年のあり方、より具体的な内容を検討
- ◆2014年12月9日 教区宣司評運営委員会を開催し、教区百周年の開催内容の検討を深める
- ◆2014年1月21日 教区宣司評運営委員会を開催し、教区百周年の年の概要をまとめる
- ◆2015年4月5日 教区百周年の年に関する司教文書を発行（百周年の年の取り組みを示唆）
- ◆2015年4月15日 教区宣司評運営委員会を開催し、百年の開催原案をまとめ、教区宣司評に諮ることとする
- ◆2015年6月6日 教区宣司評で教区百周年の開催概要をまとめ、実施していくこととする
- ◆2015年6月10日 教区百周年記念誌（DVD）制作のシナリオを説明し、各地区の協力を依頼する
- ◆2015年6月10日 教区百周年の年の標語の募集を行う
- ◆2015年6月24日 教区宣司評運営委員会を開催し、具体的な取り組みをまとめ、小教区・修道院へ告知することとする
- ◆2015年6月30日 全道司祭会議で、教区百周年の年に関して、教区宣司評と運営委員会でのとりまとめ事項を説明
- ◆2015年7月2日 教区百周年の年の今後の取り組みについての文書を小教区、修道院へ発送
- ◆2015年7月21日 第一回の教区百周年記念誌（DVD）編集委員会を開催
- ◆2015年7月24日 教区百周年の年の標語選定についてのお知らせを発信

25の個人・グループから69首が応募

教区100周年の年の標語の選定方法は、皆様から応募いただいた「標語」を教区の皆様と分ち合ったうえで、これはと思う「標語」に皆さんが、1位、2位、3位まで選んで投票して決定することになりました。

投票の締め切りは8月31日（月）まで

投票様式は任意で、「標語」の番号、投票者氏名、所属教会・修道院名を記載し、Fax(011-221-3668)、

E-mail (officecsd@csd.or.jp) までお寄せください。

【応募された標語】

1. 百年(ももとせ)の 北の十字架 永遠(とわ)に栄え
2. 未来へと 語り継がれる 我が信仰
3. 仕え合う心(で) 愛を告げ(て)
4. 心を受け継ぎ 愛を生きる
5. いま 告げ知らせる 神の愛
6. 貫く決意 神の愛
7. 愛を分かち奉仕のこころ
8. 札幌教区百周年 一人ひとりの役割で
9. 札幌教区百周年 従う者の心は一つ
10. 札幌教区百周年 与えられたものを伝えるために
11. 札幌教区百周年 イエスのことばと行いを告げるために
12. 神の愛 伝えて百年ありがとう これからも感謝をこめて伝えよう
13. 生きよう開拓精神 み国目指して
14. はばたけ開拓精神 み国に向けて
15. 飛びたてまたこの百年 希望を乗せて
16. 平和の使者としての札幌教区
17. 福音の核心を共に生きよう
18. 灯し続けようキリストの光を
19. 宣教の道百年 さらに未来へ希望と平和どこまでも
20. 北海道 共に手を取り 手を合わせ 喜び発信どこまでも
21. いつも喜び、たえず祈り合い、感謝する共同体
22. 主と共に北の大地に、豊かな実りを
23. 主と共に、支え合い、喜び合う共同体
24. 先人達の足跡100年に感謝、キリストとともに未来に向かって
25. 行きなさい、わたしはあなたを遣わす!
26. 十字架を胸に宣教誓う共同体
27. えぞの地に宣教共同体100周年
28. 開かるる教会宣教100周年
29. 感謝100年 直(ひた)向(むき)100年 神の摂理! 明日に響け カトリックの言(こだま)魂
30. 神の声! 感謝100年 直(ひた)向(むき)100年 明日に響け カトリックの言(こだま)魂
31. 神の声 感謝100年! 祈り100年! 明日に響け カトリックの言(こだま)魂
32. 北の街に根づいた100年の福音
～皆で祈りの花束をつくろう～
33. 十字きり喜び伝えん新たに一步
34. 日々の仕事と生活 この疲れを主に捧げ
主の癒しを糧に 新たな100周年の今日を歩む
35. 先人達に感謝し 主を賛美しつつ
36. 小さなことも 大きな一步のはじまりに 伝え合おう
支え合おう 私達の共同体
37. 知恵と力を出し合って 行きましょう 大きな問題も
小さな平和のいとぐちに
38. 私には私なりの派遣の道 主により頼み
もがきながらも精一杯
39. 教会の活性化にみんなで考え、実行しよう
40. 地域の心のよりどころとなる教会となるようみんなで努力しよう
41. 今日 救いの日、今は恵みの時、
そして今 新たな旅立ちの時
42. 小さな人々と共に歩んで行こう
43. 原点に立ちかえり、先人の精神を糧に新しい道を。
44. 神からの生命によって生かされている私達が、平和のために働くことができますように
45. 新たな世紀に向かう教会の招命を考える
46. CoCo(ここ)はオアシス
47. 先人の熱き想いを次世代へつないでいこう主とともに
48. 主と共に新たな100年へ
49. 新たな100年へ 北の大地に主と共に生き続ける教会
50. 北の大地に神の慈しみの種を喜びのうちに蒔きましょう
51. 次の百年に向かっての一步
52. 語り継ぐ100年 未来への礎に
53. 魅力ある教会に向けて常に前進
54. 種を蒔く時 刈り取る時
55. 蝦夷キリシタンの祈りに励まされ
56. 100年の足跡と我々の一步を未来へ
57. 始まるよ 新しい100年が
58. 未来に思いをはせ 神とともに次の時代へ
59. 恵みの大地 信仰のみ実り 今 北の地に100年を過ぎ越す
60. イエスは言われた『わたしの父は今も働いておられる。だから、わたしも働くのだ』さあ、わたしたちも、、、
61. イエスは言われた『わたしの父は今も働いておられる。だから、わたしも働くのだ』だから、わたしも、、、
62. 100年の歩みの先へ、聖霊とともに
63. 聖霊とともに、100年の歩みの先へ
64. 聖霊とともに、さらなる世紀へ
65. 聖霊とともに、さらなる世紀へ、歩み出そう
66. 聖霊とともに、さらなる100年へ
67. 聖霊とともに、さらなる100年へ、歩み出そう
68. 教区100年、先達の労苦に学び 更によき共同体をめざして 共同体が福音宣教に励みますように
69. 100年の重み、この間の無数の祈りと思いを 更に発展させ、輝かき社会の福音化に取り組みましょう

新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」日本語改訂訳に基づく変更箇所

2015年11月29日(待降節第一主日)から実施

カトリック中央協議会は司教常任委員会と典礼委員会にて検討した結果、ミサの式次第改訂に関する認証をバチカンから得られるまでは、総則改訂訳の公表は差し控えることになった。

しかし、早期に実施しても大きな混乱を招かないと思われる変更箇所(司式司祭と共同司式司祭、助祭に関する変更と、日本における適応など)を、早めに慣れおくことが望ましいとの考えで今回の公表を2月の臨時司教総会で認可。

信徒に関わる主な部分を掲載しますので、司祭との事前の打合せ、確認を行い準備しましょう。(この変更に関する小冊子は司祭と教会に配布してあります。)

【ミサ全体に関する留意事項】

◆司祭、助祭、奉仕者の席

- ① 司式司祭の席は内陣に用意する。
- ② 助祭の席は、司式司祭の近くに置く。
- ③ 奉仕者の席は、司祭・助祭の席と明確に区別する。

◆動作・姿勢

- ① 参加者一同が共通の姿勢を守ることに従って、祭儀に集まったすべての人の一致がしるしとして表

別の祈りの後、司祭・助祭とともに手を合わせて深く礼をする。

◆沈黙

- ① 沈黙には行動的参加(聖なる沈黙)として重要な側面がある。
- ② ミサ中のみならず、ミサ前後の教会内はもちろん、教会堂に隣接する場所でも沈黙が守られるように配慮する。

◆オルガンや他の楽器の使用

- ① 待降節には、主の降誕の喜びを先取りしないよう節度ももってオルガンや他の楽器を用いる。
- ② 四句節には、歌を支えるためだけにオルガンや他の楽器を使用する。ミサが始まる前とミサ後、奉納行列、聖体拝領などのとき、楽器のみによる演奏は控えます。
- ③ ただし、四句節第4主日と祭日・祝日は例外。

【ミサの準備】

◆祭壇布・ろうそく・十字架

- ① 祭壇を覆う祭壇布は白色を用いる。

② 祭壇の上でろうそくを置く場合、パテナとカリスが会衆からはっきり見えるようにする。

③ ろうそくは、どの祭儀においても少なくとも2本置く。

④ 主日や守るべき祝日の場合は、ろうそくを4本もしくは6本置く。

⑤ 教区司教が司式する場合、ろうそくを7本置く。

⑥ 祭壇上もしくは祭壇の近くに、磔刑のキリスト像のついた十字架を置く。

救いのためにいのちをささげたキリストを思い起こすためです。

⑦ 入堂行列の時に行列用十字架として運ぶこともできる。

⑧ 祭壇の装飾

① 典礼季節や祝祭日の特徴を考慮し節度を守る。

② 日本の適応として、四句節の特徴をふまえて控えるに祭壇を花で飾ることができる。

③ その後、開祭以降のミサ中の表敬は省く。

④ 祭壇への表敬

① 祭壇前で司祭・助祭と奉仕者が手を合わせて深く礼をする表敬する。

② 司祭・助祭は、日本での適応として、両手で祭壇に触れて深く礼をする表敬が加わる。

③ 共同司式司祭が行列に加わる場合も同様に、祭壇に両手で触れ深く礼をして表敬する。

④ 共同司式司祭の人数が非常に多かつたり、健康上の理由など正当な理由で行列に加わらず、すでに着席している共同司式司祭は、祭壇に表敬する必要はない。

◆ 入堂行列で運んだ十字架

① 磔刑のキリスト像のついた十字架を入堂行列のときに運び、祭壇の近くに置くことができる。

② 磔刑のキリスト像のついた十字架がすでに祭壇近くにある場合は、行列用十字架は他のふさわしい場所に置く。

③ 入堂行列の時に運んだろうそくは、祭壇の上もしくは祭壇近くに置く。

◆ 内陣にある聖櫃への表敬

① 聖櫃が内陣にある場合、ミサの始めと終わりに聖櫃に表敬する動作が加わる。

② 日本の適応として、司祭・助祭と他の奉仕者は聖櫃の前で立ったまま手を合わせて深く礼をする。

③ その後、開祭以降のミサ中の表敬は省く。

◆ 祭壇への表敬

① 祭壇前で司祭・助祭と奉仕者が手を合わせて深く礼をする表敬する。

② 司祭・助祭は、日本での適応として、両手で祭壇に触れて深く礼をする表敬が加わる。

③ 共同司式司祭が行列に加わる場合も同様に、祭壇に両手で触れ深く礼をして表敬する。

④ 共同司式司祭の人数が非常に多かつたり、健康上の理由など正当な理由で行列に加わらず、すでに着席している共同司式司祭は、祭壇に表敬する必要はない。

◆ 会衆へのあいさつとミサへの導入

① 祭壇からではなく、通常、自席から立って行い、祭壇は供えものの準備の時から使用する。

② 内陣の広さや構造などによっては、祭壇から行うこともできる。

③ その日のミサへの短い導入は、司祭だけでなく、助祭もしくは信徒の奉仕者が行うこともできる。

◆ 回心の祈り

① 回心の祈りへの招きの後、一同が自らを振り返ることができるよう、短い沈黙のひとときをとる。

② ミサの回心の祈りにおける司祭のゆるしのことばは、ゆるしの秘跡としての効果をもたらすもので

はない。

【ことばの典礼】

◆ことばの典礼における沈黙

①『典礼憲章』30条では「聖なる沈黙」を守るように求められている。日本の適応として、第1・第2朗読の後、朗読された神のことばを味わうために、答唱詩編とアレリヤ唱（詠唱）が始まる前に沈黙のひとときをとる。

◆朗読台の使用

①聖書朗読は、神のことばの食卓である朗読台から行う。
②朗読台はことばの奉仕のみに用いる。

◆朗読の務め

①ミサの中の聖書朗読の務めは、司式者ではなく朗読奉仕者の務めであり、洗礼による祭司職の行使となる。
②福音朗読は助祭の務め。助祭不在の場合は他の司祭によって告げられる。
③一つの朗読を複数の朗読者によって行われるのは、主の受難の朗読に限られる。

◆答唱詩編

①答唱詩編はできる限り歌うように求められている。詩編を歌うことが難しい場合も、答唱だけでも会衆が歌うことが望ましい。
②詩編を歌うことができない場合は、詩編をふさわしい方法で朗唱する。

◆福音朗読前の応唱（アレリヤ唱、詠唱）

①アレリヤ唱（詠唱）の唱句は聖歌隊あるいは先唱者によって歌われ、会衆は「アレリヤ」を歌って参加する。
②日本の適応として、聖歌隊が無かったり、先唱者がいなかったりする場合、一同が全てを通して歌うことができる。

◆福音朗読

①司祭が福音朗読する場合、初めに司祭は手を広げるのではなく、助祭の代わりとして司祭が朗読するため、手を合わせたまま「主は皆さんとともに」と唱える。会衆は「司祭とともに」と答える。
②朗読する司祭は、福音書に十字架のしるしをしながら「○○○による福

音」と唱えていたが、今後は、「○○○による福音」と唱え、親指で福音書、ならびに自分の額、口、胸に十字架のしるしをする。
③会衆は「主に栄光」と唱えながら、司祭と同様に自分の額、口、胸に十字架のしるしをする。

◆説教

①説教を信徒に委ねることはできない。
②説教は自席、朗読台、もしくはふさわしい場所に立つて行う。
③説教の後、すぐに信仰宣言もしくは共同祈願に移るのではなくふさわしい沈黙のひとときをとる。

◆共同祈願

①意向は、朗読台もしくは他のふさわしい場所から唱える。
②意向を唱える務めは洗礼による祭司職の行使なので、助祭、先唱者、朗読奉仕者、信徒がその務めを果たす。

【感謝の典礼】

◆供えものの準備
①共同祈願が終わると一同

は着席する。

②供えものの行列が行われ、ない場合も、準備の間、奉納の歌を歌うことができる。
③パンとぶどう酒いがいのものは、祭壇上ではなく他のふさわしい場所に置く。

④献香する場合、司祭はパンとぶどう酒、十字架と祭壇に献香する。
⑤その後、奉仕者は祭壇横で、香炉を3回振って、司祭と会衆に献香する。

◆聖体授与の臨時の奉仕者

①臨時の奉仕者は司祭が拝領してから祭壇に近づく。
②奉仕者は、司祭・助祭から聖体を拝領する。
③奉仕者は祭壇に置かれたパテナもしくはカリスを自分で取るのではなく、司式司祭から受け取る。

【閉祭】

◆退堂

①退堂の時も、入堂行列と同様に司祭・助祭の祭壇への表敬が加えられた。
②共同司式司祭は、退堂時には両手をついての祭壇表敬は行わない。



利尻巡回教会の閉鎖

2015年9月30日をもって閉鎖することになりました。

1969年武宮雷吾神父が召し出しの家を建てたのがきっかけでスタートし、1978年に利尻教会を建てて稚内教会の巡回教会と

③聖櫃が内陣にある場合、司祭・助祭が祭壇に表敬した後、司祭・修道者・他の奉仕者は聖櫃の前で立ったまま手を合わせて

深く礼をします。
④この表敬の後、司祭・助祭と他の奉仕者は祭壇の前で手を合わせて深く礼をしてから退出。

なる。

召し出しの黙想の家として全国の多くの方々にご利用されてきた。

教会と召し出しの黙想の家の世話をしていたシスター武宮さんが骨折を繰り返すなど体調が思わしくなく、もう一人の吉田さんだけでは維持管理していく事が難しくなった。

また、利尻と礼文にいる信徒10名程での建物の維持管理も難しいと判断され、7月1日開催の教区司祭評議会と教区顧問会議で、雪が降る前に感謝ミサを行い閉鎖することが決まった。

感謝ミサは9月21日(月、敬老の日)午後1時30分から主任司祭である長尾俊宏神父の司式で行われる。これまでの皆さまから頂いたお祈りとお恵みに感謝いたします。

第51回国際聖体大会がフィリピン・セブ島で開催

2016年1月24日から31日に開催。教皇フランシスコも大会へ臨席か。
日本公式訪問団団長に勝谷司教がなり、準備が整い参加者を募集

後日、小教区・修道院へ募集の案内が送付されるので希望者は申し込んでください。
日本司教団もフィリピン司教協議会から国際聖体大会への招待を受けている。
また、フィリピン司教協議会会長は、5月23日に教皇

フランシスコは2016年初めにフィリピンを訪問し、セブでの国際聖体大会に臨席する可能性があるとも明らかにしている。

フィリピン・セブ教区のホセ・パルマ大司教は、バチカンが2016年5月に予定されている国際聖体大会の日程を1月に前倒しできないか依頼してきた、と語った。バチカンからの書簡によると、教皇は同年5月には既に予定が入っているという。
「私たちは1月で結構だ

と返事しました。教皇がフィリピンを訪問してください」とバチカンから」とバチカン大司教は語った。同大司教は、教皇庁国際聖体大会委員会の委員長も務めている。

同大司教は「私たちは、教皇が私たちを明るく励まし続けてくださることを知っています。教皇が訪問してください。私たちの信仰とキリスト者としての生活に多大なインパクトがあるでしょう」と語っている。

千徳康雄神父の司祭叙階50周年を祝う

4月29日に北一条教会で勝谷太治司教の司式で、多くの司祭・修道者・信徒が出席し、千徳神父の司祭叙階50周年を祝うミサが行われた。

ミサ後は聖園こどもの家ホールに会場を移して祝賀会が行われ、ミサに引き続き多くの信徒が参加し祝った。

宋榮峻神父が韓国へ帰国

約10年間の派遣期間を終えて、8月2日の山鼻教会でのミサを最後に、韓国・護国府教区へ戻られた。

宋神父は、当初、メリノール宣教会を通して、札幌教区に派遣された。東室蘭、登別、山鼻、真駒内の主任司祭を務め司牧活動を行った。

教区の風

勝谷司教様は、今年の4月13日(月)から翌年の9月4日(日)までで「教区百周年の年」と定めました。

現状のこととして耳にする言葉があります。「教会に来て信者を見てみると、高齢化社会の中で、これからの教会がどうなるか不安だ」と言う言葉です。

確かに、これも今の札幌教区、日本の教会の現状かもしれません。

例えば、昨年の教勢調査の数字をみても洗礼者数152名に対し死者数228名と減少傾向をしめしています。洗礼者数は、1960年台頃は年に1000名前後、

1990年台頃は450名前後、2000年頃から200名前後です。

信者数を伸ばすには洗礼者数を増やすしかありません。そして、信者数を伸ばすには、イエスの教え(福音)を広めるしかないのです。今、私たちは、どのようにして一般の人々に福音を宣べ伝えていくかと言ったことを

考える時です。私たちの日頃の行動から、イエスの教えとはこういう事なんだなと知ってもらおう事ではないでしょうか。

例えば、歌うことが得意な人は、聖歌隊などの活動を通して、誘い合っ

て一般の方にも参加してもらおう事は出来ないでしょうか。

建築など技術の得意な人は、その技術で教会のことを知ってもらおうことができないでしょうか。

学校・幼稚園・保育所・施設で働く神父様やシスター、信徒の姿や行動に触れて、教会に通い始める人もいるのではないのでしょうか。

一般の人が、教会に強く引き付けられるものは何か。

一般の人が、教会を訪れやすくするにはどうすれば良いだろうか。

教会以外で、福音を宣べ伝えるにはどうすれば良いか。

今、楽しさを感じながら様々なことを思いめぐらしています。

教区百周年の年を、楽しいものとしましよう。

(札幌地区 H)

「藤学園創立90周年」Sr.永田淑子理事長

藤学園は、今年創立90周年を迎えました。キノルド司教様の願いによって1920年にドイツから来日したシスターたちが、学校を開校したのが1925年でした。それ以来、多くの苦難や試練を経ながら、神様と人々のいづくしみ深い愛とご親切に支えられ、助けられながら90年を歩んでまいりました。

しかし、たくさんいたシスターの数はどんどん減少して、これからの大きな課

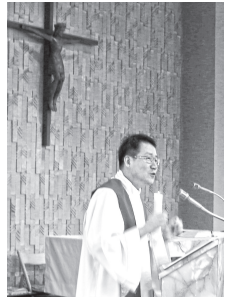


題は、カトリック的な価値観をどのように生徒たちに伝えていくことができるかです。信徒の教員も少なく、学生・生徒・園児達にどのように神様の愛を伝えていくことができるか、大きな課題です。これは藤学園だ

けではなく、日本中のカトリック学校が直面している課題です。

今年の9月28日午前に記念式典を行います。9月26日には中高生によるオーケストラなどの記念コンサート、28日午後にはピアノスト遠藤郁子さんの記念コンサートがあります。この二つのコンサートはどなたでもどうぞ。藤学園講堂で入場無料です。

皆様、本当にありがとうございます。ございました。



7月26日真駒内協会での最後の説教をする宋神父

教区内の主な行事（8月～11月）

日 時	名 称	会 場
8月9日（日） 午前10時30分	旭川地区カトリック大会（堅信式があります） テーマ：宣教する共同体を目指して 講 師：勝谷 太治 司教	旭川大雪クリスタルホール
8月22日（土） 午後1時30分～ 23日（日）午後1時	障がいと共に歩む札幌大会2015 （日本カトリック障がい者連絡協議会・第12回全国大会）	藤女子大7階756教室
8月30日（日）	北見地区カトリック大会 講 師：ライヤ・フランシス神父（苫小牧教会主任）	北見教会
9月5日（土）	第50回苫小牧地区女性大会 テーマ：出向いていく教会 指導者：ライヤ・フランシス神父（苫小牧教会主任）	伊達教会
9月6日（日） 開場：午前8時30分	札幌地区使徒職大会 テーマ：教区100周年を迎え 新しい100年への宣教を考える 講 師：勝谷 太治 司教	札幌光星中学高等学校講堂
9月7日（月）～ 12日（土）	教区司祭年の黙想会	
9月26日（土）～ 27日（日）	旭川地区黙想会 講 師：中川 博道神父（男子跣足カルメル修道会）	旭川五条教会
10月11日（日）～ 12日（月）	札幌地区おやじ（男性信徒）の会 情報交換と親睦を深める	北11条教会
10月18日（日） 午前10時～ 午後3時45分	苫小牧地区信徒大会（堅信式が行われます） テーマ：札幌司教区の100年 －カトリック教会の将来を見据えて－ 指導者：勝谷 太治 司教	海星学院講堂（室蘭市）
10月23日（金）～ 24日（土）	カトリック福祉施設の集い（札幌カリタス主催）	函館・旭ヶ岡の家
10月27日（火）	札幌教区司祭評議会	ベネディクトハウス
10月31日（土）	2015年度第2回札幌教区宣教司牧評議会	札幌マリア院
11月1日（日） 午前10時	釧路地区カトリック大会 テーマ：釧路地区の現状・課題・将来像	釧路教会

関連団体の主な行事（8月～11月）

日 時	名 称	会 場
9月15日（月）	十勝カルメル修道会創立25周年記念ミサ	幼きイエズス修道院
9月19日（土）	横内弘司祭 トラピスト大修道院長就任式	トラピスト大修道院
9月28日（月）	藤学園創立90周年記念ミサ	藤学園

2015年7月6日 帰天
2014年11月22日 誓願金祝
2004年11月23日 誓願金祝
2000年9月23日 終生誓願
1996年9月23日 初誓願
1995年8月12日 入会
1994年8月28日 受洗
1994年6月13日 生まれる
1992年1月2日

▽Sr. M ボニファチア 吉田 和子
昨年、誓願60周年のお祝いをしたシスターでしたが、肝腫瘍のため、札幌マリア院において7月6日神様のもとに召されました。
〔略歴〕

■ 訃 報 ■
神様のもとに召された皆様のために祈りください。
■ 殉教者の聖ゲオルギオのフランシスコ修道会

故 荒木関 巧神父の
一年命日祭ミサを行う
2015年4月12日午後3時から、北一条教会にて、勝谷太治司教の司式で行われた。
追悼ミサには司祭、修道者、信徒150名余りが参加し、在りし日の神父様を偲んで執り行われた。